



No.459

発行 一般社団法人名古屋工業会
(名古屋工業大学全学同窓会)

〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4

TEL・052-731-0780

FAX・052-732-5298

E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

一般社団法人名古屋工業会会誌

ごきそ

2014 5-6 月号

【学位記授与式・入学式】

平成25年度学位記授与式

平成25年度名古屋工業会賞贈呈式

平成26年度入学式

平成26年度名古屋工業会特別奨学金授与式

【プロジェクト】

コミュニティ創成教育研究センターの2013年度の活動報告

コミュニティ工学アワード2013公開審査結果報告

【交流コーナー】

航空機開発における計測屋さんのお仕事

防災・減災と消防科学

築四十年会を終えて

【新聞記事コーナー】

半田で「メイちゃん」が観光案内

FMラジオ局が若者の呼び込みに秘策

【ホットライン】

表彰者紹介

国際化推進事業(学長裁量経費)報告会

【学生コーナー】

オプトバイオテクノロジー研究センター設立シンポジウム開催

亜鉛の抗酸化作用を発見

伊藤准教授グッドデザイン賞W受賞

部活の扉 第25回『環境委員会NEP部』

【情報ネットワーク】

支部報告



平成26年度 名古屋支部総会

平成26年度名古屋支部総会を次の通り開催致します。本年度は、名古屋工業大学の最新鋭の研究装置をご覧いただくため大型基盤センターの見学を企画しております。会員の皆様はぜひご参加下さい。

1. 日 時：平成26年 6月28日(土) 13:30～受付開始
2. 場 所：名古屋工業大学講堂会議室2F
3. 行 程：総会(14:00)→ 大型設備基盤センター (15:00～17:00)
→名古屋ビール園浩養園(18:00)
4. 会 費：支部総会、見学会；無料
懇親会；1名 2,000円(ご家族同伴の場合、人数分徴収)
5. 申 込 先：下記の支部連絡先に直接ご連絡いただくか、
単科会連絡幹事へ。締切は6月7日(土)



大型設備基盤センター

支部連絡先：橋本 忍(名古屋工業大学環境材料工学科内 名古屋工業会名古屋支部庶務)

E mail：gokisonagoya@gmail.com TEL：052-735-5291 / FAX：052-735-5281

C E 会	山盛 康 (C③)	TEL052-691-5351	名窯会	多賀 茂 (Y62)	TEL090-6801-3353
光鱈会	宇佐美智伯 (A⑥)	TEL052-704-6137	名晶会	小山 敏幸 (K61)	TEL052-735-5124
巴 会	杉山 耕一 (M⑥)	TEL052-872-9251	計測会	大鑄 史男 (F49)	TEL052-735-5393
電影会	三宅 正人 (E60)	TEL090-3581-4472	経友会	仁科 健 (B50)	TEL052-735-5396
双友会	泉地 正章 (W44)	TEL052-837-7271	情友会	犬塚 信博 (J62)	TEL052-735-5050
緑 会	大橋 聖一 (D45)	TEL0533-87-3741			

※各単科会幹事様はメールにて参加者情報をご連絡いただけますと幸いです。

「伸びる製造業の賢い大学の使い方」を出版

名古屋工業大学 産学官連携センターから、大学を利用して成功した企業の事例を挙げながら、新たな高付加価値商品を生み出すための具体的な方法を紹介した「伸びる製造業の賢い大学の使い方」が出版された。

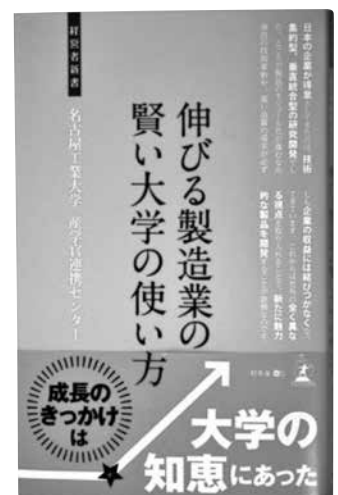
本書は、次の4章で構成されている。

- 第1章 製造業の弱点は、技術を収益につなげる力
- 第2章 グローバル市場で勝てる製造業の条件
- 第3章 大学を賢く利用し、研究開発で収益力を高める
- 第4章 先進企業に学ぶ、産学官連携の賢い利用法

本書が、新興国の台頭で悩める日本の製造業経営者が世界に通用する魅力ある製品を生み出す意欲に目覚め、何かと敷居が高く思われがちな大学を自社の研究ラボとして利用するきっかけとなることを期待したい。

発売元：株式会社幻冬舎[経営者新書]

定価：本体740円＋税



表紙写真説明

「鶴舞公園の花菖蒲」

撮影者 名古屋工業会事務局



平成25年度 学位記授与式

名古屋工業大学平成25年度学位記授与式が3月23日(日)、名古屋市公会堂大ホールにおいて、卒業生および保護者等が出席して厳かに開催された。

式典は、高橋学長をはじめ大学役員、篠田名古屋工業会理事長等来賓が列席し、管弦楽団によるワーグナー作曲「ニュルンベルグ」マ

イスタージンガー第1幕への前奏曲の演奏で開式、博士44名、修士614名、学士931名に学長から学位記が授与された。続いて学長式辞があり、大学院修了者・学部卒業生の各代表から答辞が述べられた。

最後に合唱団によって学歌が合唱され、学位記授与式を終了した。



学長式辞

国立大学法人名古屋工業大学

学長 高橋 実

本日、博士44名、修士614名、学士931名に対して学位を授与しました。合計1,589名の中、留学生は64名、社会人は38名です。名古屋工業大学を代表して激励の言葉を申し上げます。

本学は、明治38年に前身となる名古屋高等工業学校の創立以来、7万人を超える優れた人材を輩出し、我が国の産業社会の礎を築きその繁栄を支えてきました。充実した実践教育により育てられた人材は、産業界、大学・研究機関、官公庁などで素晴らしい活躍をされています。皆さんにはこの歴史を引き継ぎ、平和で幸福な未来社会の実現に向けて邁進されることを期待します。

皆さんはこれから大学を出て社会へ巣立ちますが、希望通りの企業や研究機関あるいは行政機関等に職を得ることができたと信じています。志望動機は、それぞれの企業や団体における現状でのパフォーマンスや将来性に魅かれたためかと思います。「生き甲斐・働き甲斐が見つけれられる職場だ」と。しかし、「おごれる者は久しからず」の格言のように、今だけを見て未来永劫に亘って組織や体制の繁栄を信じることには全く根拠がありません。どうすれば良いのでしょうか。「戦い」をキーワードとして5つ挙げます。

1つ目は、驕る平家も驕る前には公家政権から武家政権への変革のために戦ったということです。戦わずして栄光や栄華を獲得することはあり得ません。そして企業、国家どんな組織でも栄枯盛衰はあります。現状に驕ることなくそして甘んじることなく、グローバル社会を見据えて高い志を以て勇氣ある戦いに挑んで下さい。戦いとは改革のことです。他人や先人の財産を貪るのではなく、自らが果実を創造する気概と行動が大事です。トップあるいは幹部になってから考えるのではなく、一兵卒の段階から個人そして組織の成長を目指して下さい。「就職した時には我が会社は素晴らしかったのに」



と嘆いても仕方ありません。仮にそういう局面を迎えたとしても、自分としては最大限の努力をしたと言えるだけのことを行っていないなら、悔いが残るでしょう。勿論、就職時点では「大した会社では無かった」という逆のケースもあるでしょう。進路の選択に際しては、先生、保護者、友人、先輩など様々な人に相談し助言を確かに受けたかもしれません。しかし、よしんば不本意な選択としても、究極的には自分で決めたという、強い意志と覚悟を忘れないで下さい。

2つ目は、戦いには必ず壁があり、壁にぶつかった時にどう動くかということです。壁は技術的な壁、制度的な壁あるいは人的な壁かもしれませんが、エーリッヒ・フロムという社会心理学者の著書に「自由からの逃走」というものがあります。第1次世界大戦後のドイツはワイマール共和国と呼ばれ、かなり自由な政治・社会体制が敷かれていましたが、それなのに何故、ヒトラー率いるファシズムが台頭したのかを考察したものです。先の見えにくい今の時代にも通じる鋭い洞察がなされています。壁への対応について、フロムを含め沢山の先達の思想に学んだ私の考えを述べます。個としての人は壁にぶつかった時に、「壁を乗り越えて克服を目指す者」「壁に慄き同化することにより立ちはだかる者」そして「壁の存在に眼を瞑り現実から逃げる者」に

分かれそうです。壁は新しいチャレンジには必ず現れます。新しい出会いにわくわくして前に進む勇気を持ち、壁にぶつかって壁の大きさや強さを知る肉体派となって下さい。そして、壁を乗り越えるだけの智慧や考え方の源は、本学の教育で培われたと信じています。

3つ目は、工学者あるいは技術者魂です。何が本学の教育で培われたのかを考えて下さい。私は工学とは大学においても企業においても、良識ある市民として私利私欲に走らず、研究成果を人類と社会の幸福のために使うことと考えています。勿論、出発点にある私利私欲は否定しませんが、それを大きな利と高い欲に広げて下さい。およそ120年前の名古屋高等工業学校の開校式において、当時の文部大臣である牧野伸顕先生が祝辞で述べた「品格ある工業家」の意と思っています。実際、学内分析や他機関による大学研究力の調査でも、本学は基礎研究が基礎研究として留まらず、応用研究に結実している姿が特徴として浮かび上がっています。今、人類社会は人口、エネルギー、資源、環境、食糧などのグローバル課題に直面し、科学技術を軸としたイノベーションの必要性が盛んに言われていますが、何のためのイノベーションかを常に考えて動いて下さい。人類社会そして日本の今後の発展は皆さん方若い世代の活躍に相当部分を負わざるを得ません。それを苦痛に思わず、是非、工学を礎にした先導的な人材として、数年、数十年先の真に豊かな社会の実現に貢献を期待するものです。

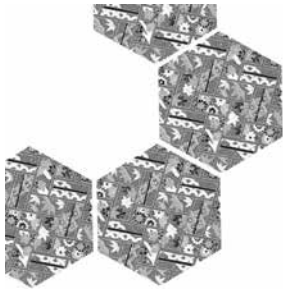
4つ目は、バランス感覚です。グローバル社会に必要なことの一つは、多様な価値観の衝突を克服することです。出典は「論語」説が多いようですが、皆さんも「中庸の徳」という言葉をご存じかと思います。人により解釈や受け止め方も違いますが、「中」は直線上の左と右の真ん中を指すものでは無いということはほぼ一致した見解です。私は、左か右かを決断しなければならないときに、二者択一しか選択の余地が無いと考えるのではなく、同一平面ではないより高いレベルでの調和を目指す思考様式と考

えています。この意味では西洋哲学においてもドイツ語でアウフヘーベンという同じような言葉があります。申し上げたいことは、これから皆さんは様々な局面で矛盾を抱え込んだ選択を強いられる機会が増えるのは間違いなく、その際に思考様式だけでなく行動規範としても高次のバランス感覚を持って欲しいということです。

5つ目は、社会人としての友をできるだけ多くつくることです。学生時代からの友人はもちろん大切ですが、実社会において組織や年齢あるいはポストの違いを超えた友人関係です。仕事上で利害関係のある間、例えば数年間の付き合いというのは自然に起こります。しかし、時を経て仕事上の利害から離れても付き合いえる人はそういません。人生、苦しい時は必ず訪れ、孤独な戦いも避けられませんが、そのような時に本当に支えてくれる人を得ることは何にも替え難い財産です。そのような友を得るためには、お互いに他者へのリスペクトをベースにしっかりと信託関係をつくることに尽きます。

これまで述べた5つの事柄は「戦う必要性」「戦う勇気」「戦いの大義」「戦いの姿勢」「戦いの友」と表されます。i P S細胞など、人類による新しい科学知や技術知の探索はこれからも続きます。本学の特別招聘教授に就任されており、ノーベル賞の有力候補にも挙げられている春田正毅先生による「金ナノ粒子触媒」や細野秀雄先生による「透明酸化物半導体」など、工学分野においてもその可能性は無限とも言えます。そして、我が国の技術者として忘れてはならないことは東日本大震災・原発事故からの復旧・復興と東南海地震を含む減災・防災への取り組みです。皆さんへ贈る私からのメッセージは、『「好奇心」「恐れない」「諦めない」の精神の下、「バランス感覚を持った戦う技術者たれ!』です。

最後になりますが、本日の学位記授与式に列席された全ての方とともに慶び、学生諸君の大成を祈念し、私の式辞とさせていただきます。本日は皆さん、おめでとうございます。



平成25年度名古屋工業会賞贈呈式 (学生支援事業)

理事長挨拶

一般社団法人名古屋工業会
理事長 篠田 陽史 (M33)

平成25年度学位記授与式にあたり、名古屋工業大学全学同窓会であります一般社団法人名古屋工業会を代表して、本日めでたく学位記を授与されました皆様に心よりお祝い申し上げます。

本日学位を授与された皆様、ご同席のご家族そして関係者の皆様には栄えあるこの日を迎えられ感激と喜びは如何ばかりかと拝察いたします。

また遠く故国を離れ、本学にて学ばれた留学生の皆様方、そして故郷のご家族を始め、これまで支援してこられた方々のお喜びは言い尽くせないものがあると感じると共に厳しい環境の中で学業を全うし、本日を迎えられましたこと、その意欲と努力に対し深く敬意を表します。

先程19名の方々に、名古屋工業会賞を贈呈いたしました。この賞は名古屋工業大学を卒業された方々のうち、極めて学業成績が優秀であり、豊かな感性とリーダーシップを持ち、他の学生の模範となると認められた方々に、学長の推挙に基づき贈呈するものです。どうかそれぞれの分野での輝かしい活躍を期待いたします。

これから諸君は社会に出る方、さらなる勉学の道に進む方と、それぞれ新しいスタートとなりますが、先に社会に出た先輩から、今卒業の諸君に是非とも伝えたいことがあります。

それは名古屋工業大学への帰属意識、アイデンティティを強く持って欲しいことです。

私が理事長になって以来、機会ある毎に訴え続けてきました。

母校が衰退してゆくことは諸君に対する社会の評価が下がって行くことを意味します。これからは諸君が卒業生として大学を支援し繁栄さ



せてゆく立場になります。

名古屋工業大学の7万人にならんとする先輩卒業生の産・学・官での大きな実績のバックアップにより、就職先を選ぶのに困ることは少なかった筈です。これからは諸君がこれを担う、即ち社会において実績を挙げ、無くてはならない人材と評価されることです。このためには、大学及び社会に出た卒業生とのコンタクトを深く持つことが必要です。耀く、ますます耀く母校は諸君にかかっています。

諸君は極めて幸運です。大学が生涯メールアドレスを渡してくれました。在学時代と同じです。大学とのコンタクトが格段に容易となりました。また各分野に広がる7万人にならんとする卒業生の知識、経験を活用するのも大切です。

学長直属の卒業生連携室では、名古屋工業会、各単科会の協力のもと、卒業生名簿及びそのデータベースの整備を進めています。

名古屋工業会も大いに活用して下さい。卒業生は諸君の財産です。

ご承知とは思いますが、名古屋工業会は同窓会組織として大正4年設立以来98年、現在母校

名古屋工業大学の支援を事業目的の第一とし、在学生、卒業生及び教職員とそのOBの方々を会員とする全学組織で「耀く、ますます耀く母校を願って」をキーワードに事業を展開しています。

大学支援の二つ目、金銭的な支援も大切です。諸君が収入を得るようになった時には大学への寄付も考えるべきです。

大学では海外での研究発表や研究派遣など優れた教育、研究環境を作るため、大学基金への寄付を継続的に募るシステムを動かしています。卒業生、先生方からの寄付が増えてきています。

各種の同窓会や集まり、そして諸君個人の記念すべきときなど、たとえ少しでも寄付をする習慣ができれば、その中で母校に対するアイデンティティも養われると思います。名工大に入ったからこそできる集まりでもあるからです。是非とも心に留めておいて下さい。

最後になりましたが、これまで皆様を育てて下さいました、ご家族に深い敬意を表しますと共に、名古屋工業大学を日本でも有数の高い評価の大学に導かれ、この3月31日に退任されます高橋学長、教育、研究のご指導を頂きました、教職員の皆さま方に心からの謝意を表し、私の挨拶といたします。

名古屋工業会賞の贈呈式が平成26年3月23日(日)に名古屋工業大学学位記授与式の後で行われ、篠田理事長から次の19名に表彰状と記念品(刻銘入り時計)が贈呈された。

名古屋工業会賞は、第一部、第二部の各学科卒業生のうち、在学中の学業成績がきわめて優秀であり、豊かな感性を持ち他の学生の模範となる学生に対して、学長の推挙に基づき贈呈するものです。



贈呈者

(第一部)

生命・物質工学科	山内 聡子	小林 奈津美	内藤 陽子
環境材料工学科	平松 孝章	安藤 健太	
機械工学科	坂川 泰章	矢田 将	松尾 真之介
電気電子工学科	鈴木 一馬	磯崎 順平	梶間 崇宏
情報工学科	野村 香織	佐藤 雄介	溝口 知彦
建築・デザイン工学科	宇野 芳奈美	川本 一輝	
都市社会工学科	山内 真太郎	和田 拓己	

(第二部)

電気情報工学科	犬塚 秀紀
---------	-------



平成26年度 入学式

名古屋工業大学は4月6日(日)、平成26年度入学式を名古屋市公会堂大ホールにおいて開催した。

式典は、鵜飼裕之学長をはじめ大学の役職者、名古屋工業会の篠田陽史理事長、二权幸夫常務理事らが列席し、管弦楽団の奏楽で開式した。

鵜飼学長から工学部第一部949名、工学部第二部22名、大学院工学研究科博士前期課程641名、博士後期課程49名、総数1,661名の入学が許可され、各代表が勉学・研究に専念する旨を宣誓した。続いて、鵜飼学長から入学者歓迎の式辞が述べられた。最後に、新入生を歓迎して合唱団が学歌を合唱し、入学式を終了した。

引き続き、名古屋工業会特別奨学金授与式が行われた。各学科の成績優秀者7名に、篠田理事長から賞状と特別奨学金目録が授与され、お祝いの言葉が述べられた。

この後、新入生には学部生と大学院生に分かれて新入生オリエンテーションが行われた。保護者には名古屋工業大学と名古屋工業会による保護者説明会が開催され、鵜飼学長の挨拶の後、山下啓司キャリアサポートオフィス長ら大学教職員から、名工大の特長、入学から就職までの大学生活をサポートする体制について説明が行われた。続いて、篠田理事長の挨拶の後、水谷尚美連携強化委員長が全学同窓会である名古屋工業会について説明し、保護者に本会への理解と協力を求めた。



鵜飼学長に宣誓文を読み上げる新入生



保護者説明会

学 長 式 辞

国立大学法人名古屋工業大学

学長 鵜飼 裕之

ご入学おめでとうございます。本日より名古屋工業大学の一員となられた皆さん、教職員一同を代表して心より歓迎致します。ご家族ならびに関係者の皆様にも、心よりお祝い申し上げます。

改めまして、この4月より学長に就任しました、鵜飼と申します。

今、私は壇上で皆さんに式辞を述べていますが、41年前には、皆さんと同じようにそちら側に座り、当時の名古屋工業大学長の式辞を聞いていました。これからは学長一年生として、皆さんとともに歩んできたいと思っています。どうぞ、よろしくお願い致します。

まず、皆さんの先輩として名古屋工業大学の歴史について少しお話ししたいと思います。

名古屋工業大学は、明治38年創設の名古屋高等工業学校と昭和18年創設の愛知県立高等工業学校を源流として、昭和24年、二つの学校が合併し、新制国立大学として発足致しました。約一世紀前、教職員30名、学生100名で開校した高等工業学校は、科学技術の進歩と高等教育の普及に伴い、教職員数、学生数ともに国立大学工学部の中で、屈指の規模を有する工科系単科大学として発展してきました。その間、数多くの卒業生が産業界をはじめ各界における中核となり、指導者となって活躍してこられました。トヨタ看板方式を生み出した大野耐一さん、昨年ノーベル賞の有力候補者として名前があがった春田正毅先生など、世界的に著名な方々も数多くいらっしゃいます。

ところで、私が学生として暮らした時代の名古屋工業大学の面影は、古墳を除くと今はほとんど残っていませんが、一つだけ古い建物があります。それは、正門を入って右手にある土色の建物「校友会館」です。この建物は昭和7年に、卒業生、教職員、学生がお金を出し合って寄附して建てられたことから、当初は「三協会館」、



「三者が協力する」と書く三協、そう名付けられました。二階の展示室には、先輩達がどのような環境で講義を受け、実験していたかがわかる写真や、用いた実験装置、また先生方が考案された機器などが展示されています。その中には、大正4年に機械科の教員と学生らが作ったガソリン自動車の前で誇らしげに写っている写真があります。トヨタ自動車が設立される22年も前のことです。是非一度、覗いてみて下さい。

もう一つ、建物にまつわる逸話を紹介します。第二次世界大戦の空襲により名古屋は甚大な被害を受けました。名古屋工業大学も殆どの建物を焼失しました。復興して新制国立大学に昇格するにあたり、「御器所が丘で名工専の歴史と伝統を守る」との決意から、教職員、学生、卒業生が一体となって復興運動が起こりました。その中でも、学生達の活躍は目覚ましく、夏休みを返上して汗を流し、働いて貯めた資金をポンコットラックに積み込んで建設会社に駆け込み、2階建て木造の本部建物の完成にこぎ着けました。そんな逸話が残っています。私たちの先輩達が、如何に、名古屋工業大学への情熱をもっていたかを、新入生の皆さんにも是非知っておいて頂きたいと心から思っている次第です。

さて、皆さんは、名古屋工業大学で「工学」を学んだ後、卒業後は技術者・研究者として、

社会でのリーダーとして活躍することが期待されています。これまで技術者は「科学」、サイエンスを基礎として、次々と新しい「もの」や「こと（事象）」で世界を満たしてきました。そのスピードはめざましい勢いで加速しています。今皆さんが手にしている携帯電話の進化やタブレット、さらにはSNSの日常化を想像できたでしょうか？つまり工学、エンジニアリングとは、そのような新しい世界を実現するための「設計や構築の方法」を探究する学問を言い、技術、テクノロジーとは、それによって編み出された「成果」と言えます。言うなれば、その成果物によって材料工学、電気工学などという専門分野が生まれ、さらに私の専門である電気の中でも半導体工学、電子工学、通信工学など数多くの専門分野が細分化され、また、専門性が益々色濃くなってきました。ここで大切なのは「チーム力」です。工学では、従来のいろいろな分野が結びつき、新たな融合的な分野が生まれています。機械、電気電子、情報など様々な分野の技術が集積した「ロボット工学」、また生命、材料、化学が融合した生命工学などはそのよい例です。新しいものを生み出す技術の開発は、各専門分野の技術者がチームで取り組んでいます。一人一人の技術者には、しっかりとした専門分野の力量とともに、異分野を理解してチームで働き、専門技術を複合化していく能力が必要です。そのためには是非、自らの専門分野にとどまらず、幅広い分野に関心をもって勉強し、研究に取り組んでいただきたい、そう願っております。

「工学」を「技術」、即ち「成果」に結びつけていくときに、もう一つ大切なことがあります。それは、得られる成果のもつ価値を深く理解し、その価値を高めていくための努力です。これまで、わが国の産業は、高品質・高付加価値の製品を世界に発信し、科学技術立国としての地位を築いてきました。しかし、世界のグローバル化が急速に進み、技術の「価値」は多様化し、一つの国や地域だけで押し量ることが困難になってきました。わが国で売れる自動車が、そ

のまま新興国でも売れるとは限りません。価値の多様性を柔軟に理解し、自らの生み出した技術の価値を高めていくためには、日本だけでなく世界の国々の歴史、文化、社会を知ることが必須です。そのための教養を広く身につけ、様々な国の人たちと交流することがとても大切といえます。

地球上には、環境、エネルギー、人口、食糧など多くの課題が山積です。まさに今、科学技術の役割は重大であり、技術者・研究者への期待、そしてイノベーションへの期待が益々大きくなっています。皆さんには、茫漠たる「工学」という名の「海」を泳ぎながら、将来皆さんが依って立つ自分自身の「工学」、エンジニアリングを見つけ出して頂きたいと思います。学生時代は、その時間が与えられた、またとない機会です。また、修士課程、博士課程へ進学した大学院生の皆さん、日本の文化と世界の常識を踏まえた革新的なリーダーを目指し、さらに「工学」を極めていただきたい。名古屋工業大学は、グローバルに活躍する皆さんを強力に支援し、教育研究環境の充実と不断の改善をはかっていくことを約束いたします。

おしまいになりますが、今、皆さんは新たなスタートラインに立ち、期待に胸を膨らませていることと思います。

『誰も知らない/世界へ向かっていく/勇気を“ミライ”って言うらしい』

これはNHKの番組「プロフェッショナル」の主題歌、スガシカオさんが歌う『progress』の中の一節ですが、何にでもチャレンジする勇氣を持って、スタートをきって下さい。何年か先の未来、皆さんが生き活きとした顔で、名古屋工業大学生として立派に成長して行く姿を想像しながら、またそうなることを心から期待しています。

教職員を代表して皆さんに熱いエールを送り、私の式辞とします。